

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	横手市立浅舞小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域と協働し起業家精神を育むキャリア教育

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1、活動に至る経緯

本校では、「ひまわりプロジェクト」として全校でひまわりを育て、ひまわりの種から油を搾油し販売することを通して、自然や地域の人々のよさを感じ、ふるさとを大切にする心情を育てる活動を行ってきた。今年度は、昨年度よりスタートしたコミュニティ・スクールを生かした地域と協働する活動とすることとアントレプレナーシップの育成をめざし本活動を改善していくこととした。実際には本助成金等を資金とし活動を進めたのではあるが、子どもたちには資金を調達するにはどうしたらよいか、収益を上げるためにはどうしたらよいか、どのようにして地域とつながりながら活動したらよいかなどを考えさせ活動を進めることにした。

#### 2、活動の目的

ひまわり栽培、絵画制作、収穫、ひまわり油づくり、他校や地域機関との連携など、ひまわりを通じた人と関わる体験活動を通し、自然や地域の人々のよさを感じ、ふるさとを大切にする心情を育てるとともに、勤労の価値や喜び、起業家精神の醸成、社会貢献意識を育むことでキャリア発達を促す。

#### 3、活動の内容

##### (1) 出資に向けたプレゼンテーション

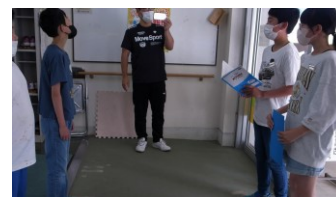
本活動の中心となって進める5年生がどのようにしてひまわりプロジェクトの資金を調達するか学年で話し合い、融資ではなく出資してもらうことで協力者に向けたプレゼンテーションを6月に実施した。予算案の作成、活動の概要の説明、質疑応答等を行い、慎重に審議してもらった。出席者からは、鳥による食害での収穫量の減少にどう対応するのか、地域にどんな思いを伝えるのかなどについて質問があった。また、予算案ではひまわり油の収益が少なく、最初から赤字になるような予算では企業だったら立ちゆかなくなるといった厳しい意見もいただいた。子どもたちにとっては大人たちの意見に終始緊張であったが無事に出席してもらうことで大きな拍手があがった。



協力者へのプレゼンテーション

##### (2) 種のプレゼントと協力の依頼

ひまわりの輪が地域に広がっていくようにと福祉施設や保育園、NPO法人樽見内地域保全委員会などへひまわりの種のプレゼントと協力の依頼を、また児童についても学校だけでなく家でも育てたいという子どもについては家庭への種の持ち帰りを行った。



支援学校への種のプレゼント

##### (3) 種まき（育苗）、散水、除草

5月、前年度の経験を踏まえ、今年度は種を植えた段階での鳥の害を減らそうと子どもたちが育苗ポットに種を植え、苗として育てた後、畑への植え付けを行うことにした。畑への植え付けの際は、異学年縦割りの班で作業し、上学年が下学年の面倒を見ながら作業することで、リーダーシップ、フォロアーシップの醸成につながった。

その後日々の活動として散水や除草を行ったが、マルチのおかげで大がかりな除草作業は不要であった。

#### (4) ひまわり関連グッズの作成

協力者からの、収益を上げる工夫をするようにとの指摘から子どもたちは、ひまわりに関連する製品を作成することを考えた。どんなものをつくったらよいか話し合い、地域に伝わる浅舞しぼり、ひまわりをモチーフとしたキーホルダーやブローチ、コースターなどを作ることにし、製作に取りかかった。浅舞しぼりについては、地域の方々のご協力を得て、その作成技法を教えてもらい、オリジナルの名称で商品化することができた。

#### (5) 刈り取り、種取り、乾燥

9月、ひまわりの花を異学年縦割りの班ごとに刈り取った。刈り取った花は、児童一人一人が家庭に持ち帰り、種を取り、乾燥を行った。集まった種を再度学校で乾燥させ、更にゴミを取り、乾燥させる作業を地域の事業所に依頼した。乾燥が終わった種を搾油業者に納品した。

#### (6) ひまわり集会

ひまわりプロジェクトに協力していただいている地域の方々を招待し、これまでのご協力に対して感謝の気持ちを伝えるとともに、これまでの活動の実際を紹介する集会を実施した。活動の様子をスライドと寸劇で紹介、ひまわりに関するクイズなどで協力者のみなさんと全校で楽しむことができた。

#### (7) ひまわり絵画展

10月に、全校一人一人がひまわりをモチーフに描き上げた作品と地域の保育園に呼びかけて描いてもらった作品を、本校のCOMMONホールに展示し、ひまわり絵画展を開催した。作品の審査には、地域の協力者の方や中学校の美術部の生徒と顧問の先生にも入っていただいた。力作揃いに審査は難航した。

#### (8) 子ども一人一人を生かすための教育についての職員研修

ひまわりプロジェクトではできるだけ子どもたちの思いを大切に活動してきた。1月、日々の授業においてもその考えを生かすことができるよう早稲田大学教授小林宏己氏を招いて研修会を行い、授業改善のための助言をいただいた。

#### (9) ひまわり油販売

当初2月に予定したひまわり油の販売であったが、製品の納品が遅れたために、3月の販売となった。地元の朝市の一角にスペースをお借りし、店を開かせていただいた。子どもたちとのゲームに参加してくれたお客さんには割引券を配付したり、呼び込みをしたりするなどの子どもたちの販売への工夫もあり、30分ほどで用意したひまわり油とひまわり関連グッズの一部を完売することができた。どのように商品を陳列したら見栄えがいいのか、どのような順路にすると会計までスムーズに進むのかなど、購買する人の立場に立って考える姿が見られた。

#### (10) 各教科等への活用

総合的な学習の時間や特別活動を中心に活動を行ってきたが、ひまわりの絵画の制作、ひまわりの種を数えるなど、図画工作や算数などとの関連を図るようにしてきた。

### 4. 子どもたちへの効果（成果・課題）

- 子どもたちが企業経営者としての視点からこの活動を捉えるようになった。収穫や収益を上げるための方策を考えることを通して、新たなことに取り組もうというチャレンジ精神、新たなものを生み出そうとする創造性、課題を乗り越えるための探究心などが芽生えてきたように感じられる。
- ひまわり関連グッズの一つとして地域の伝統工芸である浅舞しぼりの技法を使ったハンカチを製作したが、製作の過程で地域の方々と連携して取り組むことができたとともに子どもたちが地域の伝統工芸のよさを再確認することができた。
- ひまわり油の完成が予定よりも大幅に遅れてしまい当初予定した決算発表までたどり着くことができず、企業としての1年間のサイクルを実感することができなかった。活動の年間計画を見直していく必要がある。
- 子ども一人一人がより主体的に様々な活動に取り組めるようにしていくためには日々の授業の中で子ども主体の学習を成立させていく必要があると考える。今年度の活動を踏まえ、キャリア教育の在り方を教育活動全体を見つめながら検討していきたい。



育苗・苗植え



地域の方々のカも借りながら商品を製作



協力者の方々を招いてのひまわり集会



ひまわり絵画展と審査



朝市でのひまわり油の販売